

いのち
生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

2017年
第63回

日本母親大会

日本国憲法施行70年

世界に「核戦争から子どもを守ろう」とよびかけ、草の根の母親・女性の願いや要求を語り、歩みつづけて63年。63回目の日本母親大会が東日本大震災・福島第一原発事故から6年目を迎える岩手県・盛岡市でひらかれます。みんなで誘いあってあつまりましょう。

第1日目 分科会

8月19日(土) ◆12時30分～17時

◆会場：岩手大学・盛岡マリオス・盛岡アイーナ
「子どもと教育」、「くらし、権利、労働」、「平和と民主主義」、「女性の地位向上めざして」など、さまざまな問題をテーマ別に話し合います。

第2日目 全体会

8月20日(日)

◆9時30分～14時30分
◆会場：盛岡タカヤアリーナ

記念講演

安田菜津紀さん

【プロフィール】 安田菜津紀(やすだ なつぎ)
studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。1987年神奈川県生まれ。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。



©Rie Nagata

特別企画「被災地訪問」(案)

- 岩手県・陸前高田訪問 8月19日(土) ① 9時「盛岡駅」出発→バスで陸前高田市へ ② 9時30分「一関駅」出発→バスで陸前高田市へ ※(車内で学習)
「戸羽大陸前高田市長の講演」「市内被災状況の説明」
帰路①バスで陸前高田市内見学(旧気仙中学校、旧道の駅高田松原震災遺構など。気仙大工左官伝承館内神戸「希望の灯り」)→一本松→盛岡へ
// ②三陸鉄道に乗車(車内学習)→バスで盛岡へ
- 宮城県・被災地訪問 8月19日(土) 9時30分「仙台駅」出発
①仙台方面コース 仙台→荒浜→蒲生海岸→塩釜→丸文汽船で日本三景の松島の島々を見学→東松島の被災地見学→バスで盛岡へ
②石巻コース 仙台→石巻日和山公園(被災状況を聞く)→大川小学校(教職員・児童合わせて84人が犠牲)→女川の被害と原発の話→バスで盛岡へ
③南三陸・気仙沼・陸前高田コース 仙台→南三陸(防災センター見学)→歌津海岸→大谷海岸→気仙沼・被災状況見学→陸前高田の一本松を見学しながら盛岡へ
- 福島県・相馬訪問と懇談 8月18日(金) 17時「福島駅」集合・17時20分出発→バスで相馬市松川浦に移動・宿泊→翌朝19日(土) 地元の方の案内で南相馬市→浪江町→飯館村を経由→福島市に→昼食→「ふくしま復興共同センター」「子どもチーム」から福島県全体の現状と課題等現地と懇談→新幹線で盛岡へ

参加費用

「会員券」の他に、昼食代、バス代、他(各コースによって、電車代、乗船代、宿泊代等)の費用がかかります

主催●第63回日本母親大会実行委員会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 TEL 03-3230-1836 FAX 03-3230-1837

開催●岩手県母親大会実行委員会 岩手県盛岡市松尾町19-8 TEL・FAX 019-625-8032

協力●北海道・東北ブロック各県実行委員会 (北海道・青森・秋田・宮城・山形・福島)

後援●<自治体・教育委員会>

岩手県教育委員会/盛岡市・同教育委員会/宮古市・同教育委員会/大船渡市・同教育委員会/花巻市・同教育委員会/北上市・同教育委員会/久慈市・同教育委員会/遠野市・同教育委員会/一関市・同教育委員会/陸前高田市・同教育委員会/釜石市・同教育委員会/二戸市・同教育委員会/八幡平市・同教育委員会/奥州市・同教育委員会/滝沢市・同教育委員会/平石町・同教育委員会/葛巻町・同教育委員会/岩手町・同教育委員会/紫波町・同教育委員会/矢巾町・同教育委員会/西和賀町・同教育委員会/金ケ崎町・同教育委員会/平泉町・同教育委員会/住田町・同教育委員会/大槌町・同教育委員会/山田町・同教育委員会/岩泉町・同教育委員会/軽米町・同教育委員会/洋野町・同教育委員会/一戸町・同教育委員会/田野畑村・同教育委員会/普代村・同教育委員会/野田村・同教育委員会/九戸村・同教育委員会

<団体> 特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会/一般社団法人岩手県PTA連合会/JA岩手県中央会/JF岩手漁連/一般社団法人岩手県母子寡婦福祉協会/岩手県保育連絡会

母親が変われば社会が変わる!

母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみ

母親大会のはじまり

「日本婦人の訴え」から 「世界母親大会開催へ」

1954年、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ3度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうさんら5人は全世界にむけ「原水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。

それに先立ち6月、第1回日本母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭鉱や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会には河崎なつさんを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

母親大会のあゆみ

くらし・平和を守ってたくさんの 母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親運動が広がりました。そして母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成など教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子を取りまくさまざまな問題にとりくみ、貴重な成果をあげながら、60年余をあゆみつづけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命(いのち)を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

東日本大震災から6年 東北・岩手にあつまらしましょう

第63回日本母親大会は、岩手県盛岡市を中心に開催されます。1日目は、被災地(岩手、宮城、福島)訪問とテーマに分かれての分科会です。2日目は47都道府県からの参加者が一堂に集まる全体会で、記念講演の講師は、フォトジャーナリストの安田葉津紀さんです。

母親大会はだれでも参加できる大会です。格差と貧困がひろがる厳しい情勢のときだからこそ、「集まれば元気、話し合えば勇気」を合言葉に母親大会に集い、連帯をつよめ明るい未来をきりひらく力にしていきましょう。切実な要求・願いをかかげて行動し、ひとりで悩んでいる人にも声をかけ、北から南から、都市から農漁村から、世代をこえてさそいあい、よびかけあつてあつまらしましょう!